

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番22	福山市立誠之中学校
最終更新日	2024年（令和6年）4月1日	

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 コロナ禍により、社会情勢や生活環境、子どもたちの生活・意欲・様々なことが大きく変化してきている。子どもたちの目線で、目標・計画等を設定してほしい。未来を見つげられる学びとなしてほしい。	児童生徒の現状 ・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。 ・相手意識を持った行動が不十分。 ・学びへの意欲が低い児童・生徒が一定数いる。 ・長欠児童生徒の割合が高い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体性 知識・技能 思考力・判断力 表現力 自立・共生 自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒 研究主題：自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGs：11 住み続けられるまちづくり			
---	---	---	--	--	--	--

III 自校

ミッション 地域や保護者から信頼され、校区内の小学校から多くの児童が夢や希望を持ちながら入学したいと（学びたい）と思える中学校の創造	学校教育目標 自ら学び、自ら考え、たくましく生き抜く生徒の育成	現状 <児童生徒> ・多くの生徒は、決まりを守り、落ち着いた学校生活を送っているが、一部の生徒においては、学校生活が不安定となっている。 ・自分の思い・目標を持ち表現でき始めているが、将来を見据えて現在何をすべきかと思いを立てることは不十分である。 ・長期欠席生徒が多い。 <授業> ・多くの生徒は、落ち着いて学習を行っているが、知識・技能の定着は、不十分である。 ・学ぶ楽しさ（自分に見える世界の広がり）の実感が不十分のため、主体的な学びにつながっていない。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 1年 2年 3年	主体性 知識・技能 思考力・判断力 表現力 自立・共生 自ら課題を見つけ、解決に向けて情報を収集し、これまで学習したことを使って、自分の考えを説明することができる。 課題解決に必要な情報を選択・分析して解決方法を見出し、仲間と共に解決に向けて取り組むことができる。 課題を分析した結果とこれまで学習した内容を基に、他者と協力して解決方法を見出し、解決することができる。	教科等 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保体、技家、英語、総合的な学習の時間 研究 主題・内容等 主題：自らの課題・現状を把握し、主体的にその解決に向けて取り組む授業づくり 内容：学ぶことが好きな生徒の育成のための授業改善とそれを通じた生徒の学力向上 ①生徒が主体的に取り組む授業づくりを通して、学ぶことが好きな生徒を増やす。 ②生徒が課題を解決する授業づくりを通して、考えることが好きな生徒を増やす めざす授業の姿 自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を生かした授業。 ・学習と社会や自然などを関連付け、必然性のある課題設定をした授業 ・互いの考えを交流する中で、多様な価値観を認め合い、自分の考えを深める授業 ・「教える」ことと「学ぶ」こと、「指示する」ことと「自分で決める」こと等 バランスを考えた授業
---	------------------------------------	---	--	--	--

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力付達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力付達成評価	総合評価	次年度の改善方策
4	学習や体力作りに意欲的に取り組む生徒の育成	★	継続	「子ども主体の学び」を中心に据えた授業の全教室展開 【知】 【思・判】 【表】 【主】	・分析データを活用した授業改善 ・生徒指導三機能を生かした授業づくり	・標準学力調査 全国平均以上 ・生徒アンケート 「自分の考えを深めたり広げたりしている」 85%以上							
4	すべての生徒が元気で登校する学校づくり	★	継続	多様な学びの場と安心・安全な学級集団づくり 【自・共】	・多様性を認めることのできる特別活動 ・ソーシャルスキルトレーニングを活用した学級集団作り	・長期欠席生徒数 7.5%未満 ・生徒アンケート 「自分の考えは認められている」 85%以上							
6	地域から信頼される学校		継続	地域・保護者への情報発信による学校教育活動の認知 【自・共】	・各種通信の発行やHPを定期的に配信	・保護者アンケート 「学校からの情報が伝わり様子がわかる」 85%以上							
5	教職員が元気で、生徒に向き合える学校づくり	★	継続	校内研修及びICTの有効活用による業務改善	・5時間授業の日かつ部活動休養日を原則毎週確保	・教職員アンケート 「仕事にやりがいを感じている」 85%以上							

※自己効力感：自分がある状況において結果を出すために適切な行動を選択し、かつ遂行するための能力を自分が持っているかどうか認知するための言葉のこと。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。